

第3回全国私学男子ソフトボール大会戦評

全国私学大会が終了しました。

右を見ても左を見ても強そうなチームばかりで、果たして勝てるのかなと悲観的予想をしていましたが、選手達は毎試合必死で頑張り、6位入賞(出場 18 チーム)することができました。厳しい試合をすることでチーム力もかなり上がりました。私達にとっては毎日、全国の強豪チームと試合ができるという素晴らしい舞台でした。ぜひまた出場権を勝ち取り、この舞台に帰ってきたいと思います。以下、激闘の記録を御覧ください。



<1次リーグ:3チームずつ6組> 2勝でC組1位通過

初回、西口君(1-1)先制ツーランでチームに勢い!

米子松蔭00001=1

常翔学園24101=8

全員が緊張した中で始まった試合でしたが、初回の西口君のホームランでみんなの気持ちが一気に楽になりました。相手のミスもあり、楽な試合展開に持ち込むことができました。

6回、朝日奈君(1-1)値千金追加点タイムリー!

福井啓新000000=0

常翔学園010005=6

啓新はかなり強い相手でした。2回に先制点を挙げたもののギリギリの状態が続きました。相手のミスや原口君(2-13)の絶妙なバントで作った満塁のチャンスに朝日奈君がタイムリー、インニングも6回でしたのでかなりの力になりました。その後タイムリーが続き、時間切れ6回終了となりました。

<2次リーグ:3チーム4組で首位はベスト4> 1勝1敗C組2位でベスト4ならず→5-8位決定リーグへ

3回、西垣君(2-2)満塁一掃中越え三塁打!

常翔学園1041000=6

高知学芸0020000=2

前年度優勝校相手にどこまで戦えるか楽しみでした。3回に二死満塁のチャンスが巡ってきた所で代打西垣君登場。その初球を見事にとらえセンターオーバーの3塁打!試合の流れが一気に本校に向いてきました。その裏に2点を返されたのを考えるととても大きな一打でした。

ミス目立ち、滝川高校に完敗

常翔学園000000=0

滝川高校30202=7

こういうゲームを名前負け、というのでしょうか。自らのミスでチャンスを与え、失点してしまうという悪いパターンの試合でした。自分達が戦う興国高校はこんなもんじゃないことはみんな分かっているはずです。

<5-8位決定リーグ>

☆準決勝 6回、岩槻君(2-11)土壇場同点三塁打、朝日奈君決勝タイムリー!

愛知豊川0110000=2

常翔学園001002X=3

素晴らしいゲームでした。先発メンバーは日頃控えの選手たち。3回途中からメンバーを入れ替えました。その後インニングが進み、6回裏1死1塁から岩槻君が右中間に3塁打を放ち同点、続く朝日奈君が3遊間にヒットを打ち、ついに逆転。最高の試合展開に持つことができました。

☆5位決定戦 延長タイブレークの末、涙、涙、涙

常翔学園00000001=1

光明相模00000002=2

6回表に無死1,2塁というチャンスを迎えましたが、送りバントが決められず1死。続く朝日奈君のバントが内野安打となり、再び1死満塁を作りましたが、3,4番が打ち取られ無得点。そのまま延長タイブレークに突入。ここで本校はまたも送れず、無得点で2死3塁となりましたが、川端君(2-1)のタイムリーで何とか1点先制。しかしその裏、得点を与えず2死2,3塁まで持ち込みましたが、連打を許し、逆転サヨナラ負けとなり、5位はなりませんでした。

上に触れてはいませんが、全試合を通じてエース奥田君(2-7)の激投がありました。彼の奮闘なしではこれだけの戦いはいけません。本当によく投げてくれました。

今大会は繰り上げというラッキーな状況での出場となりました。思い返すと夏の近畿予選5-6位決定戦で賢明学院に勝利したことがいかに大きかったかを忘れてはいけません。この日は模擬試験等で人数も少なく、しかもこの日の3試合目でした。相手に有利に試合を進められ敗戦濃厚の中、みんなの力で反撃し、遂に西森君(1-8)の逆転打が出て、そのまま押し切り勝利しました。よく10人で重要な3試合を乗り切ってくれました。

勝利の立役者は今大会のみではないことを忘れないで下さい。その時の殊勲者達です。



今大会では全試合ともメンバー、ベンチ一体となって戦っていました。しかし反省点も多くあります。送りバントが決められない、得点差を考えた守備、攻撃が下手、等がまずあげられます。今後の課題として取り組んでいかなければなりません。

これで今シーズンは終了しました。冬にもっと力を付けて、来シーズンは部員全員の夢を掴めるように頑張ります。

